



富士宮市富士山学習に学ぶ

第22回富士山学習 PART II 発表会視察

2月1日（土）富士宮市文化会館において、第22回富士山学習 PART II 発表会が行われました。教育センター視察研修として平成25年度の第16回より参加しています。今回は13名参加しました。

富士宮市の富士山学習は「**もっと知りたい、学びたい**」といった子どもの学習意欲を源にした体験的な問題解決学習を目指したものです。「**継承と発展**」をキーワードにして、教科のかかわりに焦点を当て、学びの過程を大切にしています。身につけたい力を「**探究的な見方・考え方を働かせ、富士山とのかかわり、富士宮に住む人々とのかかわりを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考え、郷土への誇りや愛情をもつ子どもを育てる**」としています。午前中は、16校が各会場に分かれてのプレゼンテーション発表、午後は3校のステージ発表がありました。



【身につけたい力(上段は富士山学習での考え) , 【下段は新学習要領】	【教師のかかわり】
・課題を設定する力	・価値ある課題・持続性のある課題を見付け方への支援
・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立てる	
・体験や情報を生かして課題追究する力	・課題解決の見通しをもち、新たな疑問を次の課題につなげることへの支援
・情報を集める	
・他者と協同・協力して課題解決する力	
・整理・分析する。 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む	・学びや思いを、より効果的に伝えるための表現方法への支援
・学んだことを分かりやすく伝える力	
・まとめ・表現する	・学びの価値付けによる学習の深まりへの支援
・自分の学びを的確に評価できる力	
・探究的な学習のよさを理解する	

学びのポイント

- ☆プレゼンテーションの部・・・対話的な学びを意識して発表者と聴衆が双方向のコミュニケーションを図り、相互に学びが深まる発表を目指している。
- ☆展示物・・・全ての学校が学びの過程にそって、小学校3年生から中学校3年生まで系統的に学習を進めている。日々の学習の場で、様々な力を鍛えられてきていることが強く感じられる。
- ☆ステージ発表・・・課題設定、課題追求、新たな疑問、新たな課題、課題解決発信、評価、まとめという一連の活動が、子ども達・先生・関わった地域の方々が実際に登場する中で劇化され、教科と関わる学びの過程が伝わるものだった。子ども達の発想とパワーが地域と一体となって具体化されるダイナミックな取組は、小中学校が進める富士山学習を通して、富士宮市民が互いの絆を深め、発展向上に努めている姿勢の表れ。
- ☆各校児童生徒代表からなる企画委員会により、プレゼンテーション発表やステージ発表の運営がなされている。子どもたちが自分たちで作り上げているというものの表れ。(裏面に続く)



講評 千葉大特任教授天笠茂先生の話

「第1に、学習者の学び意欲を大切に深い学びの実現をめざす富士山学習であってほしい。自ら課題を見つけ、自ら考え、判断する資質・能力を育てる学習の一層の探究をめざすことが大切である。第2に、環境の変化に柔軟に対応する不断の見直しを図る取組であってほしい。第3に、富士宮市の市民に深く根ざした富士山学習であってほしい。市民とともに「社会に開かれた教育課程」の具現化を期待している。」「問いを見つける力」「質問する力」がさらに育ってほしい。

研修会に参加して



プレゼンテーションの様子

研修会に参加し、とてもいい刺激をいただきました。参加してくださった先生方の感想を一部ですがご紹介いたします。



- ・22年の歴史に重みがある。単なる発表会でなく、追究、探究学習を市全域で幅広く進めたうえでの発表であるところに意味がある。未来を担う市民を育てる気概と見通しが素晴らしい。
- ・同じ富士山がある県であるにもかかわらず、富士山学習への意識の違いを感じた。富士宮市の子どもたちのような姿に指導するためには相当の労力と時間が必要であると感じた。

- ・富士宮市挙げての富士山学習のレベルの高さに驚いた。各校工夫凝らしての発表。子どもたちの声の大きさに自信を感じた。質問にもしっかり答えられていて、しっかり学習していることが伝わってきた。富士山と自分の住む地域とのかかわり、そして未来へとつなげている発表が多かった。
- ・富士宮市の全小中学校が一体となる総合的な探究学習だった。子どもたちが自ら問いを立て、課題を追求していく姿、調べ学習を通して新たな課題を発見する姿、問いを通して様々な人たちとつながる姿、それを支える教員、地域の方々、市当局の方々等のバックアップする姿が、各発表を通して伝わってきた。富士山学習という郷土学習にかかわった子どもたちは、きっと将来の地域の立派な担い手に育っていくだろうと予想する。
- ・ステージ発表、プレゼンテーション、展示の全て驚きの連続だった。富士山学習というテーマのもと学校の周りを見直したり、福祉を考えたり、自分たちの町の未来を考えたりと幅広い学習発表だった。学校、地域、教育委員会、富士宮市全てが一体となって学習会を計画、準備、発表しており、市全体で子どもたちを成長させようとする姿が見られた。
- ・小中学生が、自分たちの地域をどう活性化させていくのか、どうしたら住みやすい場所になるのか等、様々な視点で調べ、自分たちにできることを考えていく姿勢がとてもすばらしかった。調べたり発表したりする過程で、子どもたちに様々な教科の力やコミュニケーション能力が身につくことを今日の発表を見て実感した。
- ・全体会の最後に天笠先生もおっしゃっていたが、発表者だけでなくそれを参観している児童・生徒の質問力・コミュニケーション力も重要で、学校ではとても大切にしているこれらの力がどう身についているのか試される場でもあると感じた。今日学んだことを明日からの現場で子どもたちと一緒に取り組んでいきたい、授業の在り方を変えていきたいと感じた。
- ・どの小中学校でも、自分たちの校区、住んでいる地域の特色に着目し、調査から結果の考察まで一生懸命、また、時間をかけて行っていることがわかった。ブースでの発表、ステージ発表を見て、プレゼンの仕方、討議の進め方、質疑応答の仕方など勉強させていただくことが非常に多い一日でした。
- ・一人一人が課題を追求し、自分の言葉で発表する姿もすばらしく、特に2つ感心した。①他校児童の参観者から稲子小の発表への称賛とともに必ず質問が寄せられていた。講師の天笠教授のおっしゃる「質問する力」「問いをつくる力」が児童についていると思った。②質問に対して答える発表者たちの「即興力」もすばらしかった。
- ・今回の研修に参加して最も感じたことは、小学生や中学生でも、これだけテーマを深く追求し、まとめることができるのだなということ。
- ・世界文化構成資産を守っていく子どもたちにとって歴史を振り返りながら未来を考えていく富士山学習はとても大切なことであると改めて考えさせられた。静岡の子どもたちと山梨の子どもたちと協力して富士山を守ることができるとよいと思う。子どもたちと共に富士河口湖町の構成資産を学んでいきたいと改めて感じた1日だった。富士宮市の子どもたちのプレゼン能力の高さにも刺激を受け、これからの時代には必要であると感じた。



各校の展示



企画委員会の取組

今回の研修を糧に、本町における富士山教育の実践を一層進めていきたいと感じた1日でした。